

まるべに

株主レポート

CONTENTS

- | | | | |
|----|-------------------------------------|----|-------------|
| 02 | 社長メッセージ 2007年度決算と “SG2009”の展望 | 12 | 丸紅のあゆみ |
| 08 | セグメント情報 | 14 | 世界の食卓 |
| 09 | 私たちにできること | 16 | お国柄エッセイ |
| 10 | ニュース&インフォメーション | 17 | 商品情報 |
| | | 18 | IRインフォメーション |



150th
Anniversary

2008
SUMMER

丸紅のCSR活動

海外における 奨学基金

丸紅は、1989年のフィリピンでの設立を皮切りに、東南アジア5カ国とブラジルで奨学基金を設立しています。これらの地域での海外奨学基金に対する拠出額は、6カ国合計300万米ドルにのぼり、累計支援対象者は延べ4,000人に達します。これからも丸紅は、発展途上国において次世代を担う青少年の学業支援を通して、地域社会の文化、経済発展に貢献してまいります。

No.
104

2007年度決算と“SG2009”の展望

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

私は、勝俣宣夫前社長の後を受けて、本年4月、社長に就任いたしました朝田照男でございます。宜しく願い申し上げます。

当社では、中期経営計画“G”PLANの最終年度となる決算を発表いたしました。

この機会に、2007年度決算と新中期経営計画“SG2009”(エスジーにせんきゅう)についてご報告いたします。

1 はじめに

当社は、2006年4月より2カ年の中期経営計画である“G”PLANを推進してまいりました。“G”PLANは、“V”PLANで収益基盤・財務体質の両面で「足場固め」を終えた当社グループが「成長」(Growth)を加速して、一段の「飛躍」を遂げるための2カ年計画という位置付けでした。具体的な計数目標として、「連結純利益は2カ年で2,200億円」、「連結ネットD/Eレシオは2倍台」等を掲げ、さらに新規投融資については、当社の戦略分野を中心に、「2カ年合計で5,000~6,000億円」を投入する積極経営を実践し、優良資産のさらなる積み上げを図り、総資産を「5兆円」まで増加させるという、「攻め」と「飛躍」を成し遂げるための2カ年計画でありました。“G”PLAN最終年度となる2007年度の決算は、右の表を見ておわかりいただける通り、“G”PLANで設定したほぼすべての目標を達成しております。

(●表1)

●表1 “G”PLAN実績



2 2007年度決算の概要

2007年度の当社の連結純利益は1,472億円となり、6期連続で増益、“V”PLAN期間中の3カ年と“G”PLAN期間中の2カ年を合わせて5期連続して当社最高益を更新しております。(●表2)

●表2 連結純利益

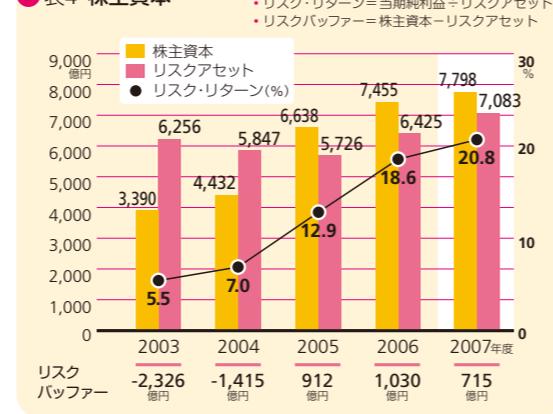


●表3 総資産とROA



2カ年で2,200億円という“G”PLAN期間中の純利益目標に対しては2,666億円となり、計画目標を金額で約466億円、率にして約21%超過して目標を達成、「安定的に1,000億円以上の連結純利益を稼ぎ出す企業グループ」に向けての基盤を確立することができました。このように、当社の収益力が大幅に伸びた要因としては、資産ポートフォリオの入れ替えを通じて収益性の高い優良資産への入れ替えを積極的に進めてきた効果、および“V”PLAN、“G”PLANを通じて実施してきた新規投融資が即効性をもって収益に寄与したことによるものといえます。その結果を裏付けるように資産効率性を示すROAは大幅に改善しております。“G”PLANスタート直前の2006年3月末では1.68%であったROAは、2008年3月末では2.92%と3%近くまで改善、“G”PLANでの「2%以上」の目標を余裕をもって達成することができました。（●表3）

●表4 株主資本



また、リスクアセットにつきましては、この“G”PLAN中に実行した積極的な新規投融資の結果、2008年3月末で7,083億円と、“G”PLANスタート前の5,726億円から約1,350億円増加しました。一方で、リスクに見合ったリターンの確保については、経営指標であるPATRACを通じてのポートフォリオ管理、投融資案件の選別が着実に功を奏し、全社ベースのリスク・リターンは、計画目標であった10%以上を大きく上回る20.8%となっております。（●表4）

収益力の向上と合わせて、「財務体質」についても引き続き改善しております。2008年3月末の、ネット有利子負債は2兆20億円、株主資本は7,798億円となり、積極的な攻めの経営を実践する一方で、ネットD/Eレシオは2.57倍と、“G”PLANの目標値であった「2倍台」を確実にキープしております。

株主資本については、中間期の段階で目標の8,200億円を上回ったものの、その後の株価の大幅

下落および円高要因もあり、目標未達となりましたが、重要なのはリスクアセットとの相対比較であります。すなわち、当社のリスクマネジメントの基本方針である「株主資本の総額が常にリスクアセットを上回る状況を堅持」すると同時に、“G”PLANで目標とした700億円を超えるリスクバッファを確保したという意味では、財務面での安定性は十分に達成できたと考えています。

次に新規投融資ですが、“G”PLAN最終年度の2007年度には3,000億円、“G”PLANの2カ年でほぼ計画通りの総額約6,000億円の新規投融資を行いました。2008年度以降の持続的成長に向けての強靱な収益基盤を確立すべく、資源・エネルギー分野では石油・ガス開発に加えてウラン、石炭、LNG分野へ、さらに当社が強みを有する海外IPP分野への投融資を積極的に実施し、この両分野に全体の約45%にあたる2,700億円を投じました。また、石油・ガス開発については、この“G”PLAN期間では大型投融資を実行しませんでした。2008年の初頭に続けざまに発表した英領北海、米国メキシコ湾での大型油田探鉱の成功は、3~4年後の当社収益を間違いなく下支えする案件として大変期待できるものです。

当社が伝統的に強みを有する食糧・食品、紙パルプ・化学品、機械・プラント関連分野に対しては、ダイエーへの出資、ベネズエラ石油公団向けへの融資、さらにはフィリピン、ロシア、メキシコ等での建設機械の販売代理店への出資等、全体の35%にあたる2,100億円を投入しました。

最後に、新規ビジネス分野への取り組みとしては、米国でのリース事業、PEファンドへの投資、国内および中国での不動産複合開発案件等に、全体の20%にあたる1,200億円を投じております。

これら戦略分野を中心とした積極的な新規投融資の結果、総資産については目標としていた「5兆円」を上回る5.2兆円まで増加し、2008年度以降の新しい中期経営計画で安定的に収益を稼ぎ出す基盤が構築されました。（●表5）

最後に配当については、当社は「連結配当性向15%を目途として、安定した持続的な経営基盤を確保しながら、業績、配当性向、内部留保等を考慮して総合的に決定する」ことを配当方針に掲げております。今期につきましては、この配当方針に基づき、当初予定していた年間配当金12円を1円増配し、1株あたり13円の年間配当、期末配当を7円といたしました。

●表5 主な投融資実績

| “G”PLAN計画 | | “G”PLAN実績 | |
|---------------------|-----------|----------------------------|---|
| 新規投融資計 | 5~6,000億円 | 新規投融資計 | 約6,000億円 |
| 強固な基盤のさらなる増強を図る分野 | 50% | 資源・エネルギー 2,700億円 45% | カザフスタン・ウラン権益取得、蒙州石炭権益取得、ペルー LNG 開発、赤道ギニア LNG 開発 IPP 事業（フィリピン、インドネシア、台湾）、IWPP 事業（カタール、UAE）、カリブ地域垂直統合型電力事業 |
| 収益下支え基盤を拡充発展させる分野 | 30% | 食糧・食品 2,100億円 35% | 食品流通分野への投資（ダイエー）、中国製パン事業 中国板紙製造事業、ブラジル植林事業、米国紙販売事業 チリ水事業、ベネズエラ石油公団向け融資、建設機械販売事業（ロシア、ベトナム、フィリピン、メキシコ）、自動車販売事業（蒙州、米国） |
| 市場の拡大を見据え積極的に挑戦する分野 | 20% | 金融サービス 1,200億円 20% | 米国自動車金融事業、米国・カナダリース事業、不動産複合開発 環境・ヘルスケア関連ほか 米国バイオマス発電事業、太陽電池事業 |

3 新中期経営計画“SG2009”の概要

続きまして、今年度よりスタートしました当社の新しい経営計画について説明させていただきます。まず計画名称ですが“SG2009”としました。また、期間は2009年までの2カ年としています。“G”PLANの遂行によって強固となった収益基盤と財務体質をさらにステップアップさせるとともに、“V”PLAN、“G”PLANで実現した成長トレンドをより確かなものとし、将来につなげることを目的とした中期経営計画です。将来に向かって「持続的成長(Sustainable Growth)」を実現するという観点から、その頭文字を採って“SG2009”としたものです。

また、副題としている「期待を超えるパートナー、丸紅」ですが、持続的成長を実現するためには、当社を取り巻く顧客や株主の皆様、社会・環境、社員などすべてのステークホルダーの利益・満足度を常に高めていくことが必要です。それぞれのステークホルダーから評価される機能・サービス・ソリューションの提供によって、すべてのステークホルダーからの期待に応えるのみでなく、「期待を超えるパートナー」となる。それが当社グループの目指す姿であり、副題として掲げています。

次に“SG2009”の基本方針ですが、「厳格なリスクマネジメント体制を敷き、優良資産の積み上げと資産効率の追求によって、いかなる経営環境の変化にも耐えうる強靱な収益基盤を構築し、持続的成長を実現する」ことと決めました。

当社を取り巻く経営環境、とりわけ世界経済はま

ずますます不透明感を増してきています。従来にも増した厳格なリスクマネジメント体制の強化が必要であることはいうまでもありませんが、正に「攻め」と「守り」のバランスが従来以上に重要になってきていると考えています。(●表6)

次に数値目標についてご説明いたします。まず連結純利益につきましては、「計画期間合計2カ年で3,500億円」としました。“G”PLANの2カ年合計は2,666億円でしたので、これまでの力強い増益トレンドを堅持する計画とご理解いただければと思います。なお“SG2009”の初年度にあたる2008年度の純利益見通しは、2007年度比12%アップの1,650億円としております。1,650億円を達成しますと6期連続しての当社史上最高益更新となります。

持続的成長を担保する目的として、既存事業を伸ばし、効率化していくことに加えて、新規投融資を2カ年合計で6,000億円程度実行いたします。米国

●表6 “SG2009”の経営指標

| ターゲットとする 経営指標 | “SG2009” (2010年3月未まで) | “G”PLAN (2008年3月未まで) |
|--|--------------------------|-------------------------|
| 連結純利益(2カ年合計) | 3,500億円 | 2,666億円 |
| 連結ネットD/Eレシオ | 2倍台前半 | 2.57倍 |
| リスクアセット | 株主資本の範囲内 | 7,083億円 |
| ROA | 3%以上 | 2.92% |
| 上記の指標を達成することで、さらなる株主資本の 充実を図るとともに、ROEについても一定の水準を維持。 | | |
| 株主資本 | 1兆円以上 | 7,798億円 |
| ROE | 18%程度 | 19.30% |

●ROE=当期純利益÷自己資産

経済の景気後退リスク、新興国経済への波及、資源価格の高騰など、世界経済そのものの潮目が変わりつつあるなか、不透明な経営環境を前提としつつ、“G”PLANの2カ年合計の約6,000億円と同規模の新規投融資を慎重かつ積極的に実行したいと考えています。

なお、重点分野につきましては、「中長期的視点に立ち、資金を重点投入し、資産を積み増す分野」、「バリューチェーンの構築を通じて、収益基盤のさらなる拡充に向け、資金を投入する分野」、「新たな仕組みの構築を目指し、資金を投入する分野」の3分野としました。特に、より重点的に資産を積み増す分野については、「資源・エネルギー分野」、「海外IPP/IWPP(発電・造水)分野」を考えています。(●表7)

これら重点分野に対する新規投融資の原資としては、利益を源泉とする内部留保を有効活用することを第一義とし、結果として連結ベースでのネット

●表7 “SG2009”施策における重点分野への経営資源配分

| 選択と集中をさらに推進し、中長期的な視点に立ち 重点分野へ経営資源を配分する。 | |
|---|-------------------------------|
| ●中長期的視点に立ち、資金を重点投入し 資産を積み増す分野 | |
| 資源・エネルギー分野 | 石油・ガス・ウランおよび 金属資源の開発・生産事業等 |
| 海外IPP/IWPP(発電・造水)分野 | 海外IPP/IWPP関連事業等 |
| ●バリューチェーンの構築を通じて 収益基盤のさらなる拡充に向け資金を投入する分野 | |
| 流通・トレード分野 | 紙/パルプ、食料、輸送機、船舶、 プラント等 |
| ●新たな仕組みの構築を目指し資金を投入する分野 | |
| 環境・金融・新機能分野 | 環境関連事業、保険・リース、 新機能ビジネス等 |

D/Eレシオにつきましては、2倍台前半まで改善させる計画としています。

また、積極的な新規投融資の実行によりリスクアセットも増加する見通しですが、引き続き株主資本の範囲内を堅持するとともに、リスクバッファについても一定のレベルを堅持していきたいと考えています。加えて、収益性の指標として、計画期間終了時のROAを3%以上と設定しています。選択と集中をさらに推進し、資産規模の拡大と同時に資産効率の改善を実現してまいります。

これまでに述べた連結純利益、連結ネットD/Eレシオ、リスクアセット、ROAを“SG2009”における数値目標としての経営指標と位置付けています。これらの経営指標を達成することで、株主資本は当社グループとして初めて1兆円以上を達成する見通しです。さらに、株主重視の経営をより意識し、株主価値創造の経営を実践すべく、新しい経営指標としてROEを掲げました。ターゲットとする経営指標を達成することで、“SG2009”におけるROEは18%程度の水準を維持したいと考えています。

4 結びとして

“SG2009”の計画期間は“V”PLAN、“G”PLANで実行した投融資が具体的な成果となって花開く時期でもあります。当社は、積極的な「攻め」を強固な「守り」で支えることで、持続的成長を実現してまいる所存です。株主の皆様方には引き続きのご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

発展途上国の次世代を担う 青少年の夢をサポート

丸紅グループが社会や環境などに貢献している分野をご紹介します。
今回は、東南アジア各国での奨学基金についてです。

丸紅が取り組む海外の奨学基金

当社のアジアでの奨学基金の歴史は、1989年にフィリピンから始まりました。その後94年には、ベトナムで国策として取り組む国民教育に役立ててもらおうことを目的として「Marubeni Educational Foundation in Vietnam」を設立。さらに、99年には、丸紅設立50周年事業の一環として、インドネシアで奨学基金「YAYASAN BEASISWA MARUBENI」を設立しました。

昨年度は創業150周年を記念してカンボジアとラオスで新たに教育基金を設立。両基金に対してそれぞれ20万米ドルの拠出を実施しました。昨年10月には、勝俣社長（当時・現会長）がカンボジアとラオスの関係先を訪問。両国政府関係者に同基金設立について説明し、双方で高く評価されています。また、すでに設立・活動しているフィリピン・ベトナム・インドネシアの3基金には、制度の拡充を行いました。

教育にお金がかかるというのは、各国、事情は変わりませんが、同じASEAN加盟国とはいえども教

育環境はさまざまです。当社は各国の教育環境に合わせた形での、地場に密着した活動を目指しています。例えば、フィリピンでは農業・技術系の職業訓練学校の、特に貧困世帯出身の学生を対象として、技術力を身に付けることで生活の安定に役立てようと考えています。また、ベトナムでは優秀な学生だけでなく先生も支援の対象にし、授与式で直接支給を行っています。

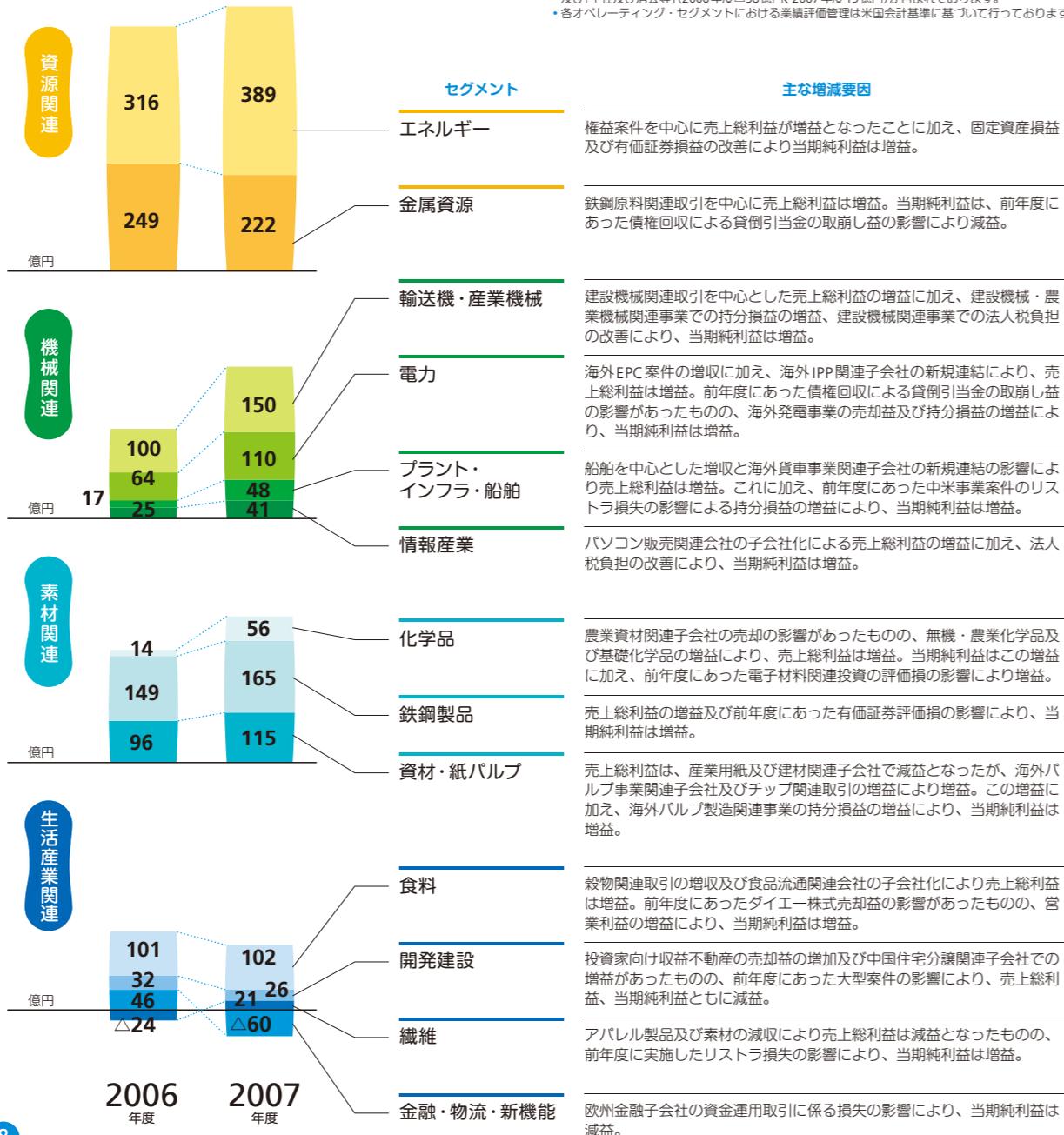
今回の新設と拡充により、当社のアジアにおける海外奨学基金に対する拠出額は、5カ国合わせて250万米ドルとなりました。これまでの累計支援対象者は延べ4,000人に達しています。当社はこれからも教育を資金面から援助することで、国際社会の一員としての責務を果たしていきたいと考えています。

ブノンベン大学への表敬訪問。ラウ・チウイアウ学長と勝俣社長(当時・現会長)



セグメント情報 純利益内訳について

・連結合計にはこのほかに「海外支店・現地法人」(2006年度68億円、2007年度70億円)、及び「全社及び消去等」(2006年度△58億円、2007年度19億円)が含まれております。
・各オペレーティング・セグメントにおける業績評価管理は米国会計基準に基づいて行っております。



※著作権の関係により、ネットワーク上への記事原文、記載画像の掲載は行いません。

2007.11.6

**アラブ首長国連邦(UAE)
タウィーラA2発電造水事業を買収**

— UAEにおける3件目のIWPP事業参画

当社は昨年11月、UAEにおいてタウィーラA2発電造水事業に正式参画しました。本事業は、アブダビ水力公社との長期引き取り契約に基づき売電売水を行うもので、保守運転も当社にて実施します。アブダビ市の北東約60kmに位置する本プラントは、710メガワットの天然ガス焼き複合火力発電設備と日量23万トンの造水設備を有し、2001年より安定的に操業を行っています。隣接するタウィーラB発電造水事業にも参画しており、昨年受注したフジャイラF2発電造水事業と併せ、同国内3件目の発電造水事業への参画となります。

当社の狙い

当社は電力事業を重点分野の一つとして位置付けており、強固な地域営業基盤や高度なファイナンス組成・開発能力、経験に裏打ちされたリスク管理対応力を強みとし、安定収益源のさらなる積み増しを図っております。2008年3月末現在、当社の保有発電資産・総発電量は1万9,511メガワット、そのうち当社出資比率分は6,586メガワットとなっております。

展望

湾岸地域では、産業の多角化に伴う旺盛な電力・水需要の伸びに対応するため、今後も同様の民活方式による発電造水事業が数多く計画されています。当社はこのような案件の中でも、長期引き取り契約や確実な履行保証に裏付けられた優良案件を選別し、事業規模を拡大する予定です。また、当社は同地域のみならず、全世界的に発電事業の拡大を図っております。

タウィーラA2
発電造水プラント



2007年11月6日 日本経済新聞13面
掲載記事より作成

2007.12.18

**アラブ首長国連邦アブダビ首長国国営企業と
日本市場向けデーツ販売で覚書締結**

当社とアブダビ・トレードハウスは、アブダビ首長国国営のデーツ（なつめやしの果実）製品製造販売会社・アルフォア社と、日本向けにデーツの独占輸入販売を行う覚書を取り交わしました。デーツは日本ではなじみの薄い食材ですが、今後当社では菓子や飲料などの原材料や健康食品として、広く定着させたいと考えています。



2007.12.30

**中国大手のベーカリーショップ
クリスティン・グループに出資**

当社は、中国華東地区のベーカリーチェーン大手クリスティン・グループに出資することを決定いたしました。都市部では、手軽に食べられるパン食の需要が高まっており、食の西洋化とも相まり、今後もニーズは増え続けると見ています。コーヒー豆やワインの販売事業など、さまざまな取り組みを進めてまいりましたが、今後も消費拡大が見込める中国マーケットでの積極的な展開を目指します。



2007

- 10.18 日本政府による2007年度地球温暖化ガス排出権調達を受注
- 11.6 アラブ首長国連邦(UAE) タウィーラA2発電造水事業を買収 — UAEにおける3件目のIWPP事業参画
- 11.13 富山県入善海洋深層水企業団地での無菌化包装米飯製造会社の共同経営を合意
- 11.29 米国にて木質バイオマスを使用した再生可能発電設備を追加買収
- 12.4 米国カリフォルニア州の風力発電ディベロッパーを買収、北米風力発電事業に参入
- 12.17 メキシコの建設機械販売代理店を買収
- 12.18 アラブ首長国連邦アブダビ首長国国営企業と日本市場向けデーツ販売で覚書締結
- 12.30 中国大手のベーカリーショップクリスティン・グループに出資

2008

- 1.24 ブラジル産バイオETBEの初の本格的な対日輸入について発表
- 1.25 台湾長生電力複合火力発電所の権益40%を買収 — 地場銀行によるノンリコース融資の組成
- 2.15 東証上場会社表彰 「平成19年度ディスクロージャー表彰」受賞
- 2.19 アサヒビール、富豪酒業有限公司と合併会社を設立、中国でワイン事業に参入
- 3.5 英領・北海における油・ガス田の探鉱に成功

150周年
記念連載

丸紅のあゆみ

当社は2008年、おかげさまで創業150周年を迎えました。
これを記念して、これまでの当社のあゆみを3号連載でご紹介いたします。

第2回 丸紅誕生からバブル景気まで

1949-1991

●新「丸紅」の海外展開

当社は1949年12月1日に「丸紅株式会社」として発足しました。

戦争により海外事務所がなくなったため、商社員の海外渡航が解禁されると、いち早くアジア、アメリカへと社員を派遣し、市場調査と新規取引先の開拓を行いました。

最初の海外拠点はニューヨークでした。1951年4月に事務所を開設、11月には現地法人を設立し貿易取引の拡充を目指しました。

1954年までに22カ所の現地法人、派遣員事務所を次々と開設し、貿易商社としてのネットワークを整備していきました。



開設当時の現地法人
ニューヨーク事務所の
スタッフ

●合併と総合商社化へ

現在、当社はエネルギーや資源などさまざまな分野で事業展開をしていますが、発足当時は売上げの8割前後を繊維関連が占め、織



1956年に増築された
旧大阪本社ビル(上)
今も大阪支社に残る彫刻家・
古賀忠雄氏によるレリーフ
「生まれ出づる喜び」(左)

維専門商社から脱却しきれていませんでした。

1955年9月、鉄鋼の国内取引に強固な地盤を持つ高島屋飯田と合併し、社名を「丸紅飯田」に変えて、総合商社化への弾みをつけました。関係会社も当社設立当初はわずか4社でしたが、1964年には国内だけで70社となり、系列会社の育成・強化にも力が注がれていきました。

1966年、鉄鋼分野で優れた業績を持つ東通を吸収合併し、東京支社を「東京本社」に改めました。高度経済成長と相まって金属、化学品、プラント、船舶、食品など多岐にわ

たる分野で事業を展開し、総合化に拍車をかけました。

1972年1月には現在の本社ビルへと移転し、社名を「丸紅」に戻しました。

●商社批判とロッキード事件

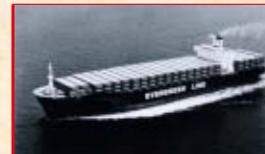
1973年になると石油価格の高騰などにより物価が上昇し、「狂乱物価」が起きました。その原因として「商社が買い占めや売り惜みをしている」という不信感が広まり、「商社性悪説」などの批判報道がされました。後に誤った報道とわかったものの、「生活の安定と福祉に貢献する」という商社本来の目的を見つめ直す機会となりました。

1976年2月にさらに大きな事件、「ロッキード事件」が起きました。同事件は、連日マスコミで報道され、当社にも多くの厳しい批判が寄せられました。この非常事態に対し、権限が集中していた社長室を廃止し、有識者を顧問に迎え、「開かれた丸紅」を目指して批判には真摯に対応しました。

こうした事件を教訓とし、「正義と利益が相反したら正義を取る」という現在のコンプライアンス体制が整備されていきました。

●「商社冬の時代」、そしてバブルへ

1980年代前半はハイテク産業が成長した



船舶需要低迷下の1982年、
台湾大型コンテナ船受注に成功

ものの、鉄鋼などの素材産業が不振で、商社の収益は低迷しました。

「商社冬の時代」と呼ばれるこの時期、情報産業などの新分野を開拓するとともに、海外市場へ進出し、商社の機能・役割を高めて、苦しい時代を乗り切ろうとしました。

1985年の「プラザ合意」は、一時的な円高不況をもたらしましたが、超低金利政策により過剰流動性が発生、「バブル景気」が到来しました。

ほかの企業と同様、当社も自己資本を株式などに運用しました。また個人消費も堅調だったため、1990年度の経常利益は548億円と当時の史上最高益を記録しました。

過熱する地価に対し、政府はその上昇を抑えるため、公定歩合引き上げや土地融資総量規制を行いました。こうした金融引き締め策に、最初に影響を受けたのが株価でした。1989年12月29日に3万8,915円の高値をつけた日経平均株価は、わずか9カ月でほぼ半値になるほど暴落しました。

1991年になり、景気も減速傾向を示すようになりました。企業倒産が相次ぐ、長い不況の始まりでした。当社にとっても、大きな転換期となる厳しい時代の幕開けでした。

次号では平成不況から現代まで(1991-2008年)のあゆみをご紹介します

ボルシチ

赤かぶで赤みを出す世界三大スープの一つで、1年中食されるロシアの家庭料理です。

レシピ紹介

4人前

材料

骨付き牛肉 160g
 キャベツ 80g
 玉ねぎ 130g
 にんじん 110g
 トマト 50g
 赤ピーマン 50g
 赤かぶ 160g
 ジャがいも 2個
 サワークリーム、マヨネーズ
 パセリ、万能ねぎ 適量
 塩、黒こしょう、砂糖 ... 適量

1



2ℓの水に牛肉を入れ、塩と黒こしょう、砂糖を加える。20分ほど煮たら取り出し、一口大にきざむ。

2



2~3cm角に切ったジャがいも、千切りにしたキャベツ、赤ピーマンときざんだパセリを牛肉の煮汁で10分ほど煮る。
Point コンソメスープでもよいですが、煮汁を使ったほうが本場の味に近くなります。

3



きざんだにんじんと玉ねぎ、赤かぶとトマトを中火で30分ほど炒め、黒こしょうで味を整える。
Point 野菜を炒めるときに、バターを少し加えるとコクが出ます。

4



3で炒めた野菜を2の中に入れて、強火で2分、弱火にして5分ほど煮込む。
Point お好みでにんにくを入れると香りが増します。

5



4の中に1を入れ、盛り付けたのち、お好みでサワークリームかマヨネーズ、彩りとしてパセリ、万能ねぎを加えて完成。

経済発展するモスクワの変わらない味

1993年から4年間をハバロフスク、2002年から3年間をモスクワで過ごされた常原さん。2回目の駐在先・モスクワを「経済成長が著しく、郊外には大型のショッピングセンターがいくつも建てられ、値段は高くても手に入らないものはありませんでした」と振り返ります。電気や水道が止まることも日常茶飯事だったハバロフスク駐在時と比べて、モスクワの住環境はよく、常原さんご夫妻のほかにも日本人がたくさん住んでいました。仲間と川下りや魚釣りに出かけて楽しんだことや、釣った魚をその場で豪快に煮込んだウハー（魚のスープ）の格別な味は、忘れられない思い出となっているそうです。

また、綾子さんは日本人会の友人と近郊の村まで、たびたびグジェリ（700年の歴史を持つ陶器。白地にコバルトブルーの絵柄が特徴）の購入に出かけられたとか。その陶器を使ってロシア料理を楽しんだそうです。

丸紅 市場業務部
 欧州・CISチーム長

常原 豪・綾子ご夫妻
 （マネージャーのベガさんと）

1993年から97年にハバロフスク支店、2002年～04年には富士フィルムロシア社長としてモスクワに駐在。



ロシア料理はスープの種類の豊富さが特徴。中でも食べる機会が多かったのがボルシチです。六本木バイカル店員のターニャさんによると「家庭ごとに独自の味があり、週に何度も食べる料理」とのこと。

綾子さんは今でも日本で作るそうですが、ボルシチ特有の鮮やかな赤色のものである赤かぶが日本では手に入りにくいので、常原さんのロシア出張時にはお土産として頼むそうです。「重くてかさばりますが、これを食べると駐在時代を思い出すことができますから」と常原さんは語ってくれました。



2014年の冬季五輪開催地のソチに友人のロシア人夫婦と家族旅行

取材協力店

ロシアレストラン 六本木バイカル

東京都六本木4-12-7 RBビル3F
 Tel 03-5770-7742
【交通】 都営大江戸線「六本木駅」徒歩1分、東京メトロ日比谷線「六本木駅」徒歩3分
【営業】 17:00～翌朝5:00（年中無休）



<http://www.roppongibaikal.com/>

シティー・リゾート、クアラルンプール

世界各地で活躍する丸紅グループ社員の現地でのエッセイをお届けします。



え さかよし 江坂喜達
Sin Heap Lee-Marubeni Sdn. Bhd.

マレーシアの首都・クアラルンプール、通称「KL」。KL国際空港でまず不思議に思うのが、マレー語、英語と並ぶ日本語の案内。マハティール前政権時代から続く「Look East政策」は、日本の集団主義と勤労倫理を奨励しており、おかげで国民は非常に親日的です。また、英国領土であったため、KLはほとんどの場所で英語が通じますが、マレー語の影響で、英語を話すときにも最後に「Lah」を付ける習慣があります。流暢な英語を話す人でも、この独特のアクセントを使うことが多く、初めて耳にしたときには別の言葉を聴いているようでしたが、怖いことに今では、欧米人と話していても、自ら「OK Lah」とつい口遊んでしまいます。

マレーシアは原油輸出国であり、新首都として開発中のプトラジャヤや、KLのランドマーク「ペトロナス・ツインタワー」などは、その豊かさの象徴

です。街ではモダンなショッピングモール、マレー風・イスラム風のドームやアーチがあるエキゾチックな建物、英国領土時代の格式あるヨーロッパ建築、アジアパワーを感じさせる中華街・インド街……と、さまざまなデザインや建物を観賞できます。

マレーシアの人口は、マレー系、中華系、インド系で構成され、それぞれの生活習慣を融合した独特な衣・食・住文化に触れられるのも、KLならではの楽しみです。イスラム国家ですが、イスラム法で許されているハラールの食べ物だけではなく、豚肉やお酒も比較的自由に味わえ、本格的な中華料理、インド料理を楽しめます。中華系移民発祥の、豚肉を煮込むバクテー（骨肉茶）などが特に有名です。

熱帯雨林地域のマレーシアは、昼間に32～33℃を超えることがほとんどですが、KLは緑も多く、朝晩ともに22～23℃と、避暑地のような安らぎも感じられます。最近では日本人の海外長期滞在先として、アジア人気ナンバー1になっているようです。皆さんも、ゴルフ、エステ・スパ、グルメ三昧のシティー・リゾートへ、ぜひお越しください。

My report from Malaysia



プトラジャヤ・モスクと首相官邸(左)
国王宮殿(右上)
ペトロナス・ツインタワー(右下)

＊ お子様とお母様に！ 着物ブランド「乙葉」発売

京都丸紅株式会社
商品企画室
Tel: 075-342-3314



7歳児用：着物 ¥50,400、帯 ¥39,900、小物セット（ハコセコ、帯揚げ、帯締、半襟、しごき）¥39,900、草履バッグセット ¥36,750、髪飾り ¥9,975、3歳児用：被布セット（着物、被布、襦袢、髪飾り、草履、巾着）¥87,150、お母様用：着物（付け下げ訪問着）¥92,400、帯 ¥39,900 ※すべて予定価格（税込み）

人気タレントの乙葉さんを起用した着物ブランド「乙葉」。ファーストコレクションとして、「家族」をテーマに、七五三着と訪問着を発売しています。お子様の健やかな成長を祝う七五三を、華やかに彩る着物をご提案。愛らしく清楚な着物の世界を、古典文様を用いて表現しています。全国の百貨店、有力専門店にて販売中です。

＊ 匠の技術が凝縮された 「木のUSBメモリー」登場！

丸紅インフォテック株式会社
マーケティング部
Tel: 03-5214-1551
http://www.monodo.jp/



和菓子のもなかをモチーフにした「Monaca」。色はメープル、チーク、ローズウッド（手前から）、容量は1GB。¥5,980（税込み）

越前漆器で有名な伝統工芸士の山口怜示氏率いる山口工芸とのコラボレーションにより、「木のUSBメモリー」の販売を開始いたしました。一般に販売されているプラスチックやメタル素材と異なり、素朴な風合いと肌触りが好評で、自然素材を好まれる方、「Made in Japan」を好まれる外国人の方からも高い評価を得ております。大切な方へ、「世界で1つのUSBメモリー」をプレゼントされてはいかがでしょうか？

＊ マイルドな本格 インド風チキンカレー

丸紅畜産株式会社
東日本販売本部 販売第一部
Tel: 03-5640-3450
http://www.marubeni-chikusan.co.jp/



みちのく森林鶏入り
チキンカレー（中辛）
1パック200g ¥198（税込み）

味のベースはインドカレー風に、香り豊かでスパイシーでありながら甘みのあるマイルドなカレーに仕上がりました。メインのチキンには、65日以上飼育された、安心・安全でおいしさにこだわった「みちのく森林鶏」を使用しています。カレーの好きな方にはもちろんのこと、幅広い年代の方に好まれ、リピーター続出の人気商品です。お求めはスーパー「マルエツ」精肉コーナーでどうぞ！

Marubeni Brand

会社概要 2008年3月31日現在

| | |
|---------|--|
| 創業 | 1858年5月 |
| 創立 | 1949年12月1日 |
| 資本金(単体) | 262,685,964,870円 |
| 従業員の状況 | 従業員数： 3,729名 平均年齢： 41.9歳 平均勤続年数： 17.9年 |

・上記人数には、国内出向者681名、海外勤務者・海外出向者・海外研修生631名が含まれております。また、上記3,729名のほかに、海外現地社員が384名、海外現地法人の現地社員が1,246名おります。

当社ネットワーク 2008年4月1日現在

| | |
|-----------|--|
| 国内 | |
| 本社 | 東京都千代田区大手町一丁目4番2号 |
| 支社・支店・出張所 | 北海道支社、名古屋支社、大阪支社、九州支社、静岡支店等11カ所 |
| 海外 | |
| 支店・出張所 | ヨハネスブルグ支店、シンガポール支店、クアラルンプール支店、バンコック支店、マニラ支店等52カ所 |
| 現地法人 | 丸紅米国会社、丸紅欧州会社、丸紅香港華南会社等22の現地法人およびこれらの支店・出張所41カ所 |

海外ネットワーク(70カ国115カ所/2008年4月1日現在)



役員 2008年6月20日現在

| | |
|-------------|----------------------|
| 取締役および監査役 | |
| 取締役会長 | 勝俣宣夫 |
| 取締役社長* | 朝田照男 |
| 取締役副社長執行役員* | 松田 章、桑原道夫 |
| 取締役専務執行役員* | 関山 護、船井 勝 |
| 取締役常務執行役員 | 坂本徹郎 |
| 取締役常務執行役員* | 安江英行、國分文也、梅澤敏徳、崎島隆文 |
| 取締役 | 藤井正雄、國松孝次 |
| 監査役 | 渡邊 進、佐々木正典、馬場和人、喜田 理 |

執行役員

| | |
|--------|-----------|
| 専務執行役員 | 望月孝一 |
| 常務執行役員 | 清水教博、太田道彦 |

執行役員

砂押 久、八田賢一、川合紳二、園部成政、山添 茂、浅原多加夫、鹿間千尋、竹下鉄弥、山下忠彦、榎 正博、野村 豊、齊藤秀久、秋吉 満、岡田大介、津田慎悟、生田章一、中村諭吉、山本 勉、鳥居敬三、柴山章司、田中一紹、世一秀直

- ・*印の各氏は、代表取締役であり、かつ執行役員を兼務しております。
- ・取締役藤井正雄および取締役國松孝次は、社外取締役であります。
- ・監査役馬場和人および監査役喜田理は、社外監査役であります。
- ・当社は業務運営の一層の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は35名で構成されております。

訂正とお詫び

株主レポート「まるべに」No.103 冬号において、下記の記載漏れがございました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

18ページ IRインフォメーション「当社ネットワーク」国内における当社支社・支店・出張所の記載に関して

誤：北海道支社、名古屋支社、九州支社、静岡支店等11カ所
正：北海道支社、名古屋支社、大阪支社、九州支社、静岡支店等11カ所

株式の状況 2008年3月31日現在

| | |
|----------|----------------|
| 発行済株式の総数 | |
| 普通株式 | 1,737,940,900株 |

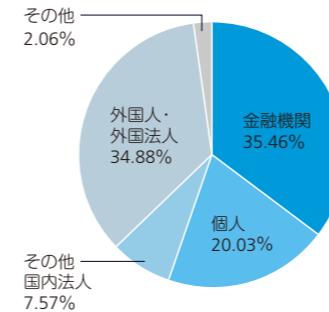
| | |
|------|----------|
| 株主数 | |
| 普通株式 | 133,522名 |

大株主(普通株式)

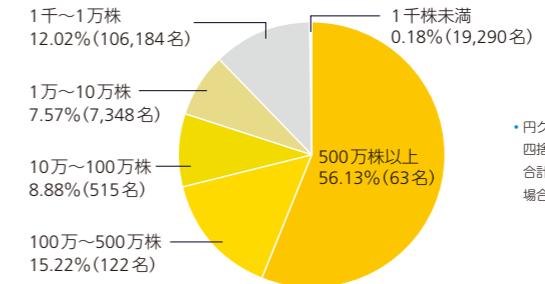
| 株主名 | 当社への出資状況 持株数(千株) | 議決権比率(%) |
|--------------------------------------|---------------------|----------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 101,784 | 5.88 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 88,487 | 5.11 |
| 株式会社損害保険ジャパン | 57,551 | 3.32 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 51,859 | 2.99 |
| ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー | 46,313 | 2.67 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 43,118 | 2.49 |
| ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103 | 32,730 | 1.89 |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 30,000 | 1.73 |
| 日本生命保険相互会社 | 26,000 | 1.50 |
| 第一生命保険相互会社 | 21,581 | 1.24 |

・持株数は千株未満を切り捨て、議決権比率は小数点3位以下を切り捨てております。

所有者別分布状況(普通株式)



所有株数別分布状況(普通株式)



・円グラフの数値は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

株価/出来高の推移 2007年10月1日~2008年3月31日



株価チャート(終値)
直近/高値/安値(東証)
直近 726円 2008年 3月31日
高値 1,066円 2007年 10月11日
安値 560円 2008年 1月22日

IRニュースメールの配信を開始いたしました

決算情報はもちろん、最新のビジネスの動きを伝えるニュースリリースなど、当社の情報をタイムリーにお届けします。パソコンのメールアドレスをお持ちの方ならご自宅でも無料で登録いただけます。ぜひご利用ください。

詳しくは当社ホームページをご覧ください。

<http://www.marubeni.co.jp/ir/mailnews.html>

丸紅が「平成19年度ディスクロージャー表彰」を受賞しました

本表彰は、東京証券取引所が上場会社のディスクロージャーを促進する観点から、積極的なディスクロージャーに取り組む企業を表彰する制度です。今回の受賞は、当社が決算短信や事業報告書、ホームページの充実、IR活動の拡充などに努めてきたことが評価されたものです。当社では、今後も透明性の高いタイムリーな情報開示を行い、企業価値の増大を図るとともに、皆様の一層の信頼を得られるよう努力を重ねてまいります。

(株)東京証券取引所 斉藤惇代表取締役社長(左)と
勝俣宣夫取締役社長(当時・現会長)



株主メモ

| | | | |
|--------------|--|---------------|---|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで | 同 取 次 所 | みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 | 単 元 株 式 数 | 1,000株 |
| 期末配当金支払株主確定日 | 毎年3月31日 | 上 場 証 券 取 引 所 | 東京・名古屋・大阪 |
| 中間配当金支払株主確定日 | 毎年9月30日 | 公 告 方 法 | 電子公告 (なお、当社の電子公告は、当社インターネットホームページの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。) |
| 株主名簿管理人 | みずほ信託銀行株式会社 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 | | http://www.marubeni.co.jp/ir/houteikoukoku.html |
| 同事務取扱場所 | みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 | | |

丸紅株式会社 証券コード：8002 インターネットホームページアドレス <http://www.marubeni.co.jp>

住所変更などの手続き、株式事務に関するお問い合わせ、書類のご請求・ご郵送については、下記あてにご連絡ください。

●お問い合わせ先● 株主名簿管理人 〒135-8722 東京都江東区佐賀1-17-7
みずほ信託銀行 証券代行部 ☎0120-288-324

株主レポート まるべに No.104 (年2回発行) 2008年6月20日発行 発行人/秋吉 満
発行/丸紅株式会社 財務部 〒100-8088 東京都千代田区大手町1-4-2 TEL 03-3282-2496

PRINTED WITH
SOYINK
環境保全のため、環境に配慮した
大豆油インキで印刷しています。